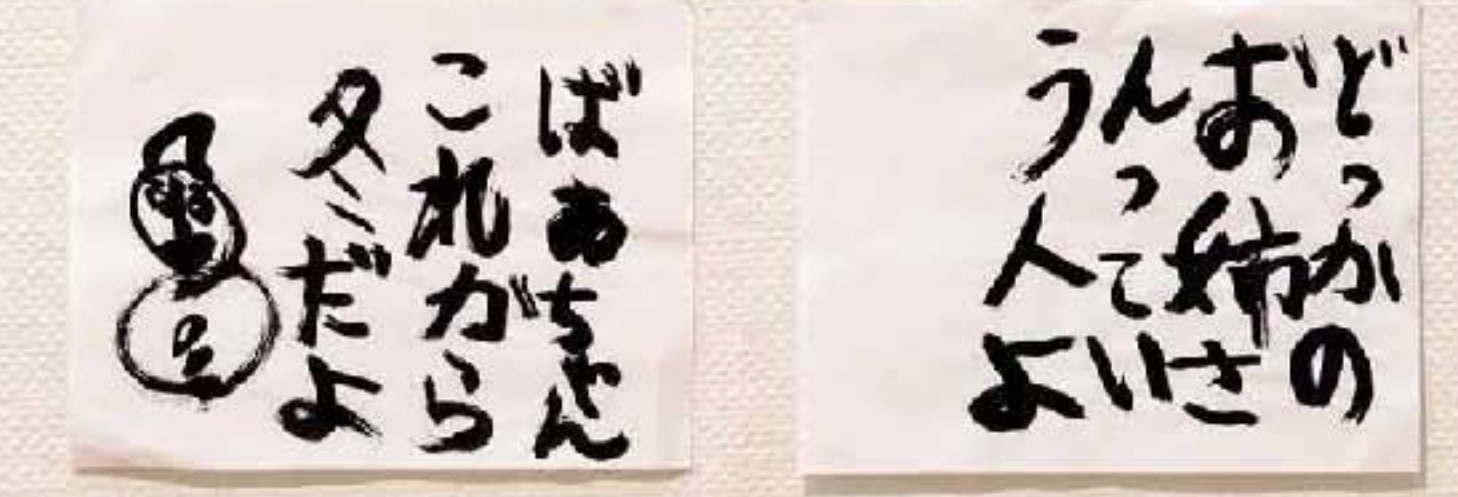




きざしをみつけるまなざし



やまがたアートサポートセンターら・ら・ら  
活動報告書 2021

きざしをみつけるまなざし



企画・制作・発行/  
やまがたアートサポートセンターら・ら・ら  
〒990-0033 山形県山形市藤防町一丁目2番7号  
TEL: 023-674-8628 FAX: 023-664-2118  
MAIL: g.lalala@y-aisenka.or.jp  
WEB: https://www.y-aisenka.com/gallery/  
Facebook: https://www.facebook.com/gallerylalala

編集/井上 規子(giinika)  
木村 隆司・武田 和恵  
(やまがたアートサポートセンターら・ら・ら)

デザイン/リウ吉堂  
表紙作品/荒木 咲  
助成/令和3年度  
山形県障がい者芸術文化活動普及支援事業

きざしをみつけるまなざし

令和3年度山形県障がい者芸術文化活動普及支援事業

CONTENTS  
目次

ごあいさつ	1
やまがたアートサポートセンター「ら・ら・ら」とは？	2
やまがたアートサポートセンター「ら・ら・ら」2021年度の事業概要	3
やまがたでつながるボーダレスアート2021 きざしとまなざし	4
やまがた障がい者芸術作品公募展/山形・福島・新潟交流事業/企画展「やまがたのきざしとまなざし2021」概要	4
山形・福島・新潟 障がい者芸術交流展	5
やまがた障がい者芸術作品公募展 受賞作品	
・大賞	6
・山形県知事賞/南部 信幸賞	7
・瀧尾 夏美賞/halkei LLP賞	8
・吉田 勝徳賞/オーディエンス賞	9
・入選作品	10
【関連イベント】おめでとう & 相談day	13
審査員総括	14
【関連イベント・ワークショップ】きざしとまなざし	16
【企画展】やまがたのきざしとまなざし2021	
・佐藤 瑠璃子さん × 佐藤 貴恵子さん	17
・長瀬 智恵さん × 長瀬 志穂さん	18
・大泉 真帆さん × 長谷部 慶貴さん	19
地域へ出かけ一緒にやってみる【アウトリーチ事業】	20
【ダンス】「からだをまなざす・ダンスワークショップやまがた2021」	20
・鶴岡 開催概要	21
・山形 開催概要	22
・米沢 開催概要	23
【展覧会】	
・酒田 サカタアートマルシェ2021「いいいろいろ」	24
・鶴岡 「さあ 咲き誇れ！ひょうげんの花2021」	25
・米沢 「第3回 わたしとあなたの表現-障がいのある人と関わる人の作品展」	26
【研修会】	
・米沢 「一緒に見つけて考える一人ひとりの可能性 -それぞれの表現と創造力を開花させる支援方法-」	27
【アトリエ紹介】	
・最上新庄 「あとろえ・くれよん」	27
【調査報告】	
・令和3年度 山形県における障がい者芸術文化活動状況のアンケート調査	28
分野を超えてさらに先へ【協働事業】	30
福祉と芸術文化のかけ橋（ぎゃらりーら・ら・ら）	31
ぎゃらりーら・ら・ら/オープンアトリエ「アトリエ ら・ら・ら」	31
2021年度 ギャラリーら・ら・ら企画展	
【企画展】わくわく・ひょうげんの泉	32
【企画展】「みえるものの向こう側」大泉真帆 長谷部慶貴 二人展	32
【公募展】「第5回やまがた障がい者アート公募展 ART DIGる〜べ」	33
【外部会場での展覧会】「きざしとまなざし特別展 遊学館」	33
【企画展】「宮城山形交流事業 みやぎ・やまがたニューカマー展」	33
【企画展】長瀬智恵個展「じゃじゃーん!!!! てっちゃんの世界」	34
お礼とあとがき	36



当法人では山形県より障がい者芸術文化活動普及支援事業を受け2年となりますが

今年度もこのような形で活動報告ができることをうれしく思います。

ご本人の意思決定支援が理念となる中でご自身を表現する手段として

アートは最も有効な方法であると思います。

ご利用者の中にはなかなか言葉では想いを伝えることがむずかしい方が大勢いらっしゃいますが、

作品を見ていると一人ひとりの心の鼓動が聞こえてきます。

これからも障がいのある利用者と地域社会の懸け橋となる活動を続けてまいりますので

気軽に足を運んでください。お待ちしております。

皆様には尚一層のご支援を宜しくお願い申し上げます。

社会福祉法人 泉会 理事長 井上 博

## やまがたアートサポートセンター「ら・ら・ら」とは？

2016年から山形県の事業として「やまがた障がい者芸術活動推進センター」を立ち上げ、山形県内の障がいのある方の芸術活動の普及支援に取り組みできました。2020年からは、障がい者芸術文化活動普及支援事業「やまがたアートサポートセンターら・ら・ら」(以下ら・ら・ら)として、障がいのある方の芸術文化活動のさらなる充実のため、下の5つの事業に取り組みんでいます。

山形県内各地域の活動に寄り添い、様々な人材と連携しながら、山形県全体での芸術活動の促進と普及を目指します。この活動によって、多様性への理解を深め、新たな価値づくりを支援し、互いを尊重し理解しあえる地域の信頼力を高めるべく取り組んでいきます。

GALLERY  
LAJAJAJA

### つくる、つなぐ、つたえる

#### ① 相談支援

##### 表現への思いをつなぐ

表現活動を始めたい、作品を発表したいなど、山形県内の障がいのある方の芸術文化活動に関する相談支援を行います。寄せられた相談内容に応じて、訪問調査や他の機関や専門家への相談なども行っています。

#### ② 人材育成

##### 「気づき」の場をつくる

トークイベント、研修会、ワークショップ等、実践を交えて学んでいく人材育成プログラムを企画・運営しています。福祉の分野だけでなく、芸術文化等の分野とも連携して、関係する人口が増えるよう、実践を行います。

#### ③ 関係者のネットワークづくり

##### 人と人、活動と活動をつなぐ

芸術文化活動を実施している障がいのある個人、団体、芸術文化団体、専門家、行政機関等と連携し、各地域内または地域を越えたネットワークづくりを行っています。情報交換や意見交換を行う様々な機会をつくっています。

#### ④ 発表等の機会の創出

##### 表現と交流の場をつくる

ざらりーらららや県内各地域での展覧会や公募展を企画・運営し、表現を発表する機会をつくっています。同時に、表現の発表機会のあり方や展覧会の固有の価値を問い、高めています。

#### ⑤ 情報収集・発信

##### 活動を見つけ、つたえる

芸術文化活動を実施している障がいのある個人、団体について、訪問調査を実施し、実態把握を行うとともに、作品の発着や著作権の収集、記録を行い、ウェブサイト、展覧会等による発信を行います。

まあるく、つないでいきます

## 社会福祉法人愛泉会「ぎやらりーら・ら・ら」とは？

社会福祉法人愛泉会では、2011年に障がいのある方の作品を展示する場「ざらりーら・ら・ら」を開設しました。障がいのある方の芸術活動の発信と人材交流の場として、福祉と芸術文化のかけ橋になるよう、地域に根付いたギャラリーを目指してまいります。

企画展示や、トークイベント、ワークショップの開催、月に1回の創作活動の場としてオープンアトリエを実施しています。(※P31参照)

ざらりーら・ら・ら/  
やまがたアートサポートセンターら・ら・ら

所在地/〒990-0033 山形県山形市鶴岡一丁目2番7号

TEL/023-674-8628 開館時間/10:00~17:00



## やまがたアートサポートセンターら・ら・ら 2021年度の事業概要

2021年度は、県内各地域の活動に寄り添い、表現活動機会の活性化および多様化を目指し、事業を継続実施しました。課題としては、障がいのある方が表現活動を行うことができる場や専門的な人材の不足、文化的な生活を送るための選択肢が少ないことなどが挙げられます。また、県内各地で絵画や立体作品の展覧会は増えましたが、発表機会が展覧会に限られる傾向もあります。そこで、県内での実態調査、デザインと工業との連携による作品の二次使用、身体表現の取組みなどを始め、真分野との連携や先進事例を学ぶ機会との協働により、地域の人材育成の仕組みづくりにも重点的に取り組みました。



相談

#### 障がいのある方の 芸術文化活動に関する 相談への支援

電話、メール、チャットや研修会場で対面での相談を受け付け、専門家と連携し、芸術活動の紹介やアドバイス、情報収集等を行いました。  
・相談件数 223件

属性：【障がい当事者 73件、家族 4件、障がい福祉関係者 74件、芸術家・文化団体・文化関係者 4件、教育関係者 7件、医療関係 1件、自治体 4件、その他(企業、報道関係等) 16件】  
内容：【相談(制作準備、支援方法等) 104件、発表(発表したい、見せたい、依頼された) 49件、交流・連携(ネットワークづくりなど) 21件、権利保護(著作権、二次利用・商品化、著作権) 7件、人材育成(研修等の情報、講師についてなど) 13件、情報発信(取材、広報、記事) 28件、その他 3件】



人材

#### 実践のなかで学ぶ 人材育成プログラム

県内3地域(宮内市、鶴岡市、米沢市)で展覧会支援事業を実施し、研修会も開催しました。新たな取り組みとしては、身体表現のワークショップを県内3地域(鶴岡市、山形市、米沢市)で実施。県内のアシリダーはオンラインで参加し、各地域の芸術ファンクラブが協賛事業団や支援学校に参加して運営することで、実践を伴う人材育成につなげました。



ネットワーク

#### 分野を越えた多様な ネットワークづくり

工業、福祉、デザイン連携事業での実践において、分野を越えた情報交換やネットワークづくりに協力しました。また、県内3地域の展覧会支援事業の決断を通して、障がいのある人やその家族、福祉や芸術分野の専門家、行政機関等とのネットワークを構築しました。身体表現の県内3地域での取り組みにおいては、実践者とのネットワーク会場を連携し、各地域での取材等を実施して共有するなど、実践に向けた対策を行いました。



発表

#### 表現への理解を深め、 価値を高める展覧会

支援センター会場のギャラリーでの企画展のほかに、県内の作品公募展、県内3地域での展覧会支援事業と巡回展を実施しました。また、各地域の専門家と連携しながら作品発表の機会や障がいのある人の活躍の場をつくらせ、工業やデザインと連携することで作品の二次利用による価値増進を行い、展覧会以外の発表の機会をつくらせました。企画展のワークショップでは、取組事例を県内3地域の展覧会場で上映し、自身の機会を設けました。



情報・発信

#### 芸術文化活動のいまを記録し発信する

県内にて障がいのある方の文化芸術活動に関するアンケート調査を実施しました。また、企画展「やまがたの気づきとまなび」において、県内3地域の芸術者と支援者の関係性を調査し、作品と写真上テネストを展覧会で展示し、広くを伝播しました。

・報道掲載：新聞 18件、ラジオ2件、テレビ2件、情報2件  
・年間展覧会：ウェブサイト1,448回、フェイスブック1,67回、YouTube(動画再生回数) 233回 / (取材記事掲載・確定印刷) 53冊



Yamagata  
山形



やまがた障がい者芸術作品公募展／  
山形・福島・新潟交流事業／企画展「やまがたのきざしとまなざし 2021」

■ 開催概要

会 期：2021年11月5日(金)～17日(水) [入場無料]  
会 場：協創館 展示室1, 2  
主 催：やまがたアートサポートセンターら・ら・ら  
共 催：山形県

障がいのある人たちの表現は、その「きざし」と、近くで表現に寄り添う方がたの「まなざし」、それら相互の関係性によってかたちづくられているともいえます。本企画は、鑑賞する方がたに、表現の「きざし」と、それに寄り添う「まなざし」を体験いただけるよう、作品と言葉を展示した展覧会です。「やまがた障がい者芸術作品公募展」(⇒P6-16)のほか「山形・福島・新潟交流事業」として作品5点の招待展示(⇒P5)、さらに企画展「やまがたのきざしとまなざし 2021」(⇒P17-19)として作家と寄り添う人の関係性に焦点をあてた展示を行いました。公募展の作品募集にあたっては、多様な表現の応募を後押しするため、事前研修会も実施しました。



やまがた障がい者芸術作品公募展

■ 募集概要

応募資格：山形県出身または在住の障がいのある方  
応募総数：199点(応募者全員189点を展示)  
審査方法：現物審査 テーマ「きざしとまなざし」  
賞：きざしとまなざし大賞1点、山形県知事賞1点、  
審査員賞4点、入選20点、オーディエンス賞1点

■ 公募展のための事前研修会「アートが福祉を参照するために」

公募展に先駆けてオンライン開催した研修会では、講師のアイハラ ケンジさんより、現代アート作品や公募展作品には共通して、「表現の多様性」があるとともに、「丁寧に、注意深く、よく見る『まなざし』の『きざし』がある」などの講話がありました。その後は、昨年の入賞作品についてゲストの岡部信幸さんも交え振り返りました。質疑応答のなかでは、感性を伸ばす関わり方についての話となり、感性はもともと人に備わっており、それを見つけれられる環境をつくるのが大切との話がありました。さらに、作者へのアドバイスやアプローチの方法については、「表現をよく見ることがヒントになる」とのコメントもあり、表現活動を支える視点を共有する時間となりました。

開 催：2021年8月12日(木)  
講 師：アイハラ ケンジさん(アートディレクター/東北芸術工科大学准教授)  
ゲスト：岡部 信幸さん(山形美術館副館長 兼 学芸課長)  
参加者：18名(福祉事業所職員、アーティスト、大学生等)

■ 審査員

瀬尾 夏美  
アーティスト



土地の入びとのことばと風景の記録を考えながら、絵や文章をつくっている。岩手県陸前高田市を拠点とした制作を経て、2015年、仙台市で一般社団法人 NOOK を立ち上げる。

halken LLP  
クリエイティブデュオ



フォトグラファー/キュレーターの三浦 南子と、アートディレクター/デザイナーのアイハラ ケンジの2名からなるユニット。東北・山形を拠点にアートブックの制作と出版、展覧会のキュレーションを行っている。

岡部 信幸  
山形美術館副館長 兼 学芸課長



山形美術館副館長兼学芸課長。1993年より山形美術館勤務。山形ゆかりの作家、モダンアート絵画や写真の展覧会を企画。東北芸術工科大学、山形大学非常勤講師。

吉田 勝信  
グラフィックデザイナー



東北芸術工科大学美術史・文化財保存修復学科在学中より市場ではじかれる野菜を流通させる八百屋を企画運営。その延長で飲食店を開設し、中退。現在は山形県を拠点にデザイン業を営む。



ら・ら・らレポート



きざしとまなざしをテーマとした公募展と企画展、他県との交流事業を始めて約4年がたちました。山形県内の表現活動の掘り起こしや人材育成を目的に、表現活動に関わる人たちのプラットフォームのような展覧会を目指してきました。年々活動が定着してきて、個人の表現が際立つ作品や、丁寧な寄り添いの姿勢がたくさん見られるようになりました。今回の公募展での「きざしとまなざし大賞」の審査では、技術ではなく表現活動に関わる人と人との関係性を大切に環境づくりを大きく評価しましたが、そうした展覧会のあり方を感じていただければとの思いを込めました。展覧会場では作品と共に「まなざしコメント」をじっくり読んでくださる方が多く、来場者のまなざしが行き交う温かい場になりました。

来場者の声

- ・それぞれのまなざしコメントが、いいと思います。
- ・豊かなステキな作品ばかりで、とても感動しました。
- ・自分に足りないことを気づかせてくれました。
- ・他のイベントとのコラボを街中でも行ってほしい。

本展示には、延べ1,003人の方にご来場いただきました。ご応募いただきました作家・関係者のみなさま、ご来場、ご協力いただきましたみなさまには、あらためて御礼申し上げます。また、本展示の公募展入賞作品および企画展「やまがたのきざしとまなざし 2021」は、その後、鶴岡アートフォーラム、米沢市民ギャラリーナセBAへと巡回。一部展示は「やまがた文化の@フェスティバル 2022」に特別展として参加するなど、県内各地へと発表の機会を拡げています。

山形・福島・新潟 障がい者芸術交流展

県知事連盟をきっかけに、2018年から、山形、福島、新潟の隣県と連携し、県内外での作品発表と交流を深める機会づくりとして開催しています。

福 島：竹本 翔太、近内辰徳  
新 潟：新井 聖沙、長谷川あ久里、森恵理奈  
協 力：はじまりの美術館、  
新潟県アール・ブリュット・サポート・センターNASC



福島県、新潟県の展覧会でも、山形県の作家の作品を展示しています。



福島

きになるひょうげん 2021  
山形招待作家：椿 ジュン、山田 幸恵



新潟

第19回  
新潟県障害者  
芸術文化祭  
山形招待作家：平祐哉



きざしと  
まなざし

# 大賞

「あっちもこっちもいっばいっばい／  
らっふる名言集」荒木 咲

①「あっちもこっちもいっばいっばい」

字のバランスがむずかしかったです。何回か書いてその中からえらびました。イライラして紙をクシャクシャにしておこっているような感じを出してみました。横書きやたて書きで自分の気持ちを筆にぶつけて書きました。

「らっふる名言集」

② おちついて  
誰とは言わねげど

他の利用者さんと支援員さんといっしょに考えた言葉です。ペンで何回か書きました。ペンに気持ちを込めて書きました。字の大きさや書き方を変えて何回か書きました。どれにしようか迷ってみんなから選んでもらったものです。

③ 今回は、  
私より先に言ったんだず

私より先に押しの車で私じゃなくて先に他の利用者さんに注意した時に出来たらっふる名言集です。筆にこめて書きました。横書きにするかたてにするか迷っているようなバージョンで字の大きさも変えて書きました。紙を描いた後クシャクシャにしました。 / 荒木 咲

荒木さんがらっふるの日常でキャッチする言葉たちは、どれもどこかユーモラスだ。スタッフからこぼれた小言や、みんなの生活から生まれた不思議な造語を、荒木さんはこんな風にすてきな形に現して、残してくれる。利用者もスタッフも関係するいろんなひとと、お互いに見守りあいながら、一緒にらっふるという居場所をつくっている。そのことが、まっすぐに、やわらかく伝わってくる。 / 瀬尾 夏美

日々の中で、それぞれの葛藤や事情を抱えながら、あっちの立場とこっちの立場、それぞれのまなざしが交差している空間を感じさせます。懐かしい様子と、冷静に状況を俯瞰している様子のギャップが、文字の緩かさによって、コミカルに表現されて思わずにっこりしてしまいます。 / halken LLP

何よりも書かれたおかしみのある言葉が心を捉え、そして書体と文字の空間の絶妙なバランスや構成が目釘付けにします。自分の気持ちを単一色の文字で伝えようという試行錯誤、さらに仲間との関係やその場の雰囲気や言葉と書体に現れているように感じました。表現のきざしとそれを支えるまなざしに満ちた、大賞にふさわしい作品です。 / 岡部 信幸

「らっふる名言集」という括りで提出された一連の書。その強度は、書道的な上手さではなく書かれた言葉にある。その言葉は、ある場面に立ち会った際に、文章として整理できない言葉、もしくは普段なら心にしまっておくような本音、小説であれば括弧書きで記述されるような表に出てこない言葉たちだ。それらが本人が書いたであろう言葉で書かれることで、その状況を想像し、共感と笑いがやってくる。

「まなざし」という観点で言うと、ケアスタッフやメンバー同士が分け隔てなく、そのシニカルな一言の対象になりつつコミを入れられていること、「きざし」という観点で言うと、捉え方を間違えると喧嘩になりそうなきわどい言葉もあるが、それを平気で「らっふる」という空間へ振り出せる勇気が良かった。単に上手い下手では測りきれない作品の強度があり、その既存の価値観の外側にある面白さを支えているのが「らっふる」の空気感と言うのがとても可能性を感じたからだ。これからもどんどん、我々の凝り固まった既成概念にツッコミを入れて欲しい。 / 吉田 勝信

きざしと  
まなざし

# 山形県知事賞

「お花の街／  
お花畑でひなたぼっこしている動物達」

齋藤 真澄

①「お花の街」

お花の街の中のことを考えながら、一步一步、工夫しながら描きました。家族や近所、お世話になっている、すべてのまわりの人達が、元気を出していただけるような作品を心がけました。大好きなおじいちゃんも米寿までありがとう!! すべて、手作業で作成しお花の絵のまわりの色紙も手でちぎって作っています。 / もみじが丘

②「お花畑でひなたぼっこしている動物達」

「色紙ください」と、いつも机の上には、色鉛筆、のり、折り紙の3点セットを準備して、お絵かきを楽しんでいます。「壁に貼ると、机に飾ると、どっちがいいですか?」と確認してプレゼントしてくれます。描いた絵は自分用ではなく必ず誰かにプレゼントしています。お花のまわりに動物たちが集まっておしゃべりしている絵を描くことが多いです。そして、ただ描くだけではなく、折り紙で飾ります。ハサミを使うことなく、自分の手でピリピリ切って貼りつけています。貼る色の組み合わせや、貼る場所にも本人なりのこだわりを持って完成させています。「ありがとう」のお礼の言葉が、更に創作意欲をかきたてるようです。 / もみじが丘

審査員の  
まなざしコメント

何度か何回もおなじモチーフを描く、そして、自分の中のイメージを求める、その真摯さと、だからこそ現れた「誰もまだ見たことがないようなあたらしい形」に惹かれます。これからたくさんつくって、審査員が見たいものを追求してほしいです。 / 瀬尾 夏美



きざしと  
まなざし

# 岡部 信幸賞

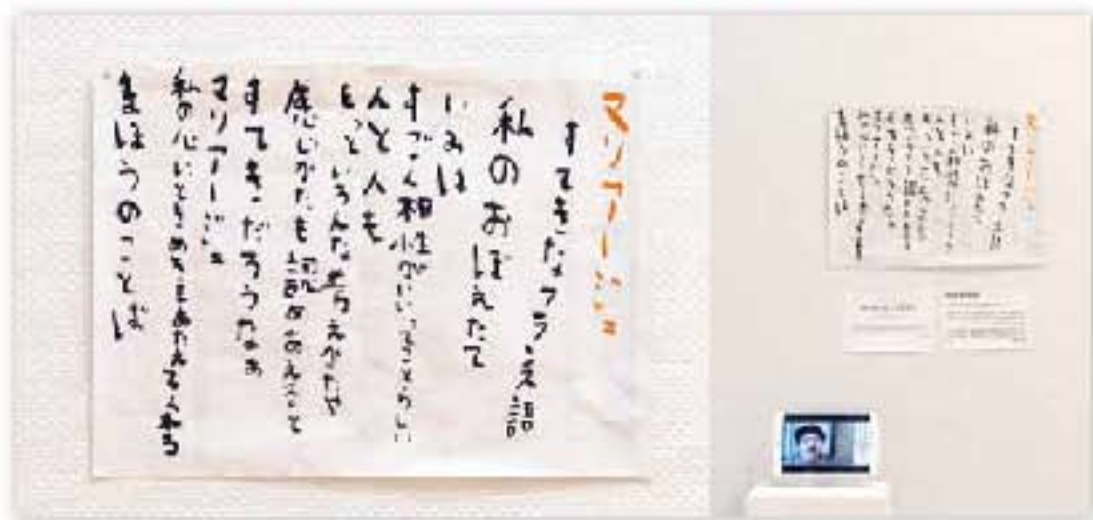
「動物シリーズ」鈴木 智



高校在学中は普通の全国大会で金賞を受賞されている方である。筆の墨を絵具に替えて日々作品作りに励まれています。人物画、風景画など、何にでもその時のインスピレーションでこなされています。 / 向陽園

ハゲワシ、ウサギ、クマ、ヒヨコ、いずれも画面の中央に大きく描かれ、その色彩感覚が素晴らしいと感じました。写真をもとに描いているようですが、鈴木さんが写真から何をみてどう描きたかったのかが、素早い筆の動きや背景の塗りうかがえ、絵画ならではの表現になっています。風景のシリーズもありましたが、いずれにも描くという原点と表現のきざしが感じられました。これからもどんどん描いてください。 / 岡部 信幸

「マリアージュふでペン/詩を朗読してみました」 みさちゅうー



アトリエの成長

こんかいは、詩の中にフランス語を入れました。私のおばえたてをふでペンでかくことにしようせんととてもむずかしかったけど、さくひんができたあと、がんばってよかったなと思いました。 /みさちゅうー

詩をはじめてろうどくしました。かんじょうをこめてよむのは、とてもむずかしかったし、さんちょうしました。アナウンサーはすごいです。 /みさちゅうー

瀬尾 夏美のコメント

そのメッセージのつよさに驚かされながら、同時に書かれた文字ひとつひとつのやさしさが、たのしさが見る者を喜ばせ、動ましてくれる。そしてなにより、自らが書いたその文字をひとつひとつなぞるように丁寧に読みあげる朗読の音がすばらしい。スタッフさんが制作した映像もみさちゅうーさんの魅力を引き出しています。 /瀬尾 夏美

「昔のふるさと」 大泉 憲司

アトリエの成長

山形県新庄市出身。山形で生まれ宮城県に移るまでの思い出をここ2、3年前から描き始めました。その中から、最上公園の中にあつた「公園亭」の店の中の様子を描いた作品を今回応募しました。薄らいていく記憶を絵の中に残すことを続けていきます。 /しじゅうから at work

アトリエの成長

丁寧に配置された素材の一つひとつに愛着を感じます。特に、作者がコンセントに着目しているところなど、作者だけが知るであろうこだわりと、それを拾い上げるまなざしが良いです。時間と空間を超えて、幸せな時間が刻まれているようです。 /halkan LLP



「ビーズ細工のような、カラフルな世界！」 志田 惟子

アトリエの成長

作品を制作されたのは、ダウン症のご利用者様です。明るく元気な、色彩感覚豊かな方で、着る服も毎日ご自分で選び、かわいくコーディネートされています。貼り絵が得意で、下絵に合わせて貼るよりも、ご自分の感覚で丁寧に並べて貼ることを楽しんでます。毎日の作品を並べたら、惟子さんのカラフルな内面が見えてくるようでした。この素敵な色合いを皆さんに見ていただきたいと思いました。(ご本人と一緒に題名と作品を並べる順番を決めました。) /かたぐるま

瀬尾 夏美のコメント

よく貼り絵は見かけますが、何かを描くための筆記用具ではなく、色紙をカラーチップ(色の面)として捉え、その組合せで美しいものを探っているようでした。服をコーディネートするように、カラーチップをコンポジションした毎日の作品。今回は、さらにそれを組合せて、より大きな色の面を探っています。その結果、作品が完成ではなく、作品を素材にレイアウトした面、空間が作品化していくような「きざし」を感じました。その「きざし」は、メンバーとケアスタッフの関係性という「まなざし」があり立ち上がったものでした。 /吉田 勝信



オーディエンス賞



来場者からのコメント  
(気に入ったところ)

- ・やさしさあたたかさが伝わります。集中して取り組んでいる姿が目の前で見えます。
- ・鬼の表情が良いです。・絵の構成が良いです。
- ・細かい作業と全体の美しさ。・配色や人物の表情。
- ・細かい作業をみんなで協力してつくり上げてあり、とても色鮮やかな作品になっていて、思わず目を奪われました。

「ないたあかおに」  
若宮病院共同制作グループ

若宮病院に入院、もしくは外来通院し作業療法を受けている方々が取り組んでいる「共同制作」の中の一作品。ロールモザイクという若宮病院オリジナルの創作手法です。この作品は患者さんとの創作に向けての話し合いで山形の童話を作品にするというアイデアが生まれ、今回の作品となりました。下絵の絵のデザインも患者さんが行い、顔の制作も他の患者さんが行っています。作品の工程は色画用紙を短冊状に切り、それを丸めてビーズにして下絵に張り付けています。切る、丸める、貼るという作業を参加する方々の技量や好みに合わせて、参加者みんなが認め合いながら制作するという「主体性の機会と役割のある暮らしをこの時間で改めて手に入れる」心の回復に向けた取り組みの形となっています。

/若宮病院共同制作グループ